

「唐丹希望基金 2018」EEC 通信 104 号  
2019-3

## 卒業生に「プレーホルン」を贈ります！

唐丹希望基金代表 高館 千枝子

3月7日、唐丹希望基金から唐丹中学校卒業生12名に「ハソウ贈呈」の為、坂口憲一郎さん、キャロル・サックさん、高館 千枝子の三人で唐丹中学校を訪問しました。私たち三人は、東日本大震災教育支援「唐丹希望基金」の活動の中で、手繰り寄せられるように出会った事で、一緒に唐丹の子供たちに寄り添うようになりました。

東日本大震災が起こらなければ、決して、出会うことがなかった多くの人たちが唐丹希望基金に関わるようになり、徐々に「共に支え合う絆」が生まれてきました。教育支援募金から出発した唐丹希望基金は「深い信頼と尊敬、友情で結ばれ、人の生き方を学び合う友」になりました。

キャロル・サックさんは、3年間（2011～2013年12月13日）連続で、全米各地から贈られたプレーショール（約200枚）を唐丹の子供たちに届けて下さいました。また、3年目の訪問の時には「友情の証の歌」**「I, YOU, WE」**を作詞・作曲し、ハーブとともに歌いました。この歌を、2014年10月に唐丹小学校学習発表会で歌う計画でしたが、キャロルさんが突然の不幸に見舞われ実現できず、辛い思い出として心に残っています。その後、2016年6月（唐丹町片川地区交流会）、10月（唐丹小学校学習発表会）、2017年12月（クリスマス慰問）に訪問し、今回で7度の訪問です。

坂口憲一郎さんは2016年3月と11月にNHKラジオ深夜便で「世界へ広がれ 鎮魂の歌」「好きなハーブで、心に寄り添う」というテーマで二人を取材しラジオで放送されました。この時、備前焼「須恵器 ハソウ」の存在を知りました。坂口さんは、震災直後、亡くなった方の魂を悼むと言われるハソウを持参し、「被災者の心に寄り添う慰問の旅」で大船渡市を慰問しています。それ以来、ハソウは「唐丹希望基金のシンボル」になって、卒業生にハソウを贈ることを決めました。

今年度の卒業生は震災の時は小学校1年生でした。片岸の海辺にあった小学校から神社のある裏山の山頂まで必死で掛け登って避難して全員無事。キャロルさんは、彼らが小学校2年、3年、4年生の12月13日に会っており、今年は5年振りの再会です。あの時の思い出がよみがえり、感動的な時間を一緒に過ごせた事に幸せを感じました。



【2013年12月13日唐丹サンタルチア祭。小4年生だった生徒達】

## ハソウ贈呈で唐丹訪問

坂口 憲一郎（岡山市）

唐丹小中学校を初めて訪問したのは2年前のクリスマス慰問でした。あの時の子供たちの目の輝きに感動したことは今も目に焼き付いています。

今回は二度目の訪問になりますが、前回と同じように生徒たちの澄んだ瞳の美しさに感動しました。11時30分頃、学校に着き、昼食までの1時間ほど校長室で待つことになりました。



まず目についたのは、ホワイトボードに貼ってある釜石新聞の記事で、大きな字で「NHK 全国短歌・俳句大会で最高賞・きょうEテレで全国放送」という見出しでした。つかさず、「この記事は2年生の上野翔明君の記事ですね」と尋ねると、菊地正道校長先生はこの1年間の学校報「不撓不屈」を見せてくださりながら、生徒たちの活躍ぶりを、次々話してくださいました。3年生の留畑瑞穂さんも『JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2018』で優秀賞に輝いたことやスポーツ大会での数々の輝かしい成果をお聞きしました。あの震災を乗り越え、皆で助け合って学校生活を送った中で目覚ましい成果をあげた生徒が多くいる事を知り、驚きと同時に目を見張るものがありました。

12時30分頃、二人の生徒が校長室に入ってきて、給食会場に案内をしてくれました。多目的ホールに入ると大きな拍手で歓迎を受け、生徒に交じって食事をいただきました。全校生徒・教職員合わせて55名ほどが一緒になっての昼食を家族的で和やかな雰囲気の中で大変美味しく頂戴しました。ごちそうさまでした。

午後は体育館で今年の卒業生12名に「ハソウ」と「ハソウ継承者証書」を贈呈させていただきました。キャロル・サックさんが奏でるハーブに合わせて高舘さんが「ハソウの祈り」を朗読した後に代表者に「ハソウ」を贈呈させていただきました。

キャロル・サックさんが唐丹の子供たちへ送った歌「**I, YOU, WE**」をハーブを奏でながら歌うのに合わせて、私も一緒にハソウを吹かせていただきました。西洋の楽器ハーブと古代の和楽器ハソウが一つに溶け合い、歌詞の「**But we are friends, but we are friends, Friends in the human family.**」の思いが心に沁みてくるのを感じました。世界各地で紛争が絶えず、ハソウが「平和へのメッセージ」になればと思います。



## 私たちは人間として家族です

サック キャロル（東京都三鷹市）

この間、高館千枝子さんと坂口憲一郎さんと共に唐丹中学校を訪ねました。自分でびっくりしましたが7回目の唐丹訪問でした。新校舎をはじめて拝見できてとても嬉しくなりました。学校の内面はほとんど木製で、おしゃれでこころを暖かく、安心してくれる印象でした。校長先生方と色々の話が出来て、生徒達の様子、唐丹基金の有難さ、ハソウの原点と意味、学生達の将来の計画などについて話し合いました。

35名の中1、2、3年生達と共に昼食をいただいて、みなさんの素直さに感動しました。2011年、初めて訪ねたとき、今の三年生達は小学校一年生でした。生徒達がこんなに大きくなってしっかりしてきて、時間の目で見えない流れを感じましたね。

新体育館に移動してから高館さんの挨拶の後坂口さんはハソウ（プレイヤーホーン）を三年生の卒業生達にプレゼントをしました。その後、私は小型ハープで伴奏して『I, You, We』を歌いました。歌う前にみなさんに簡単な説明をしました。

「2013年、3回目訪ねたとき、皆さんに感謝の気持ちでいっぱい、何かプレゼントあげたいと思いました。そのとき、この曲が生まれました。曲の意味はこれです：私達は顔と髪の毛の色が違うし、文化、言葉、もしかすると宗教も違います。しかし、一番大事で深いところ～こころ～が一緒です。私たちは人間として家族です。だから、戦争なんかするのは馬鹿らしいです…」歌の後、体育館を出るときに、高館さんが手を振って”**But we are friends, but we are friends, friends in the human family**”を歌いながら退室しました。このメッセージは特に今の時代に必要だと思いますから、皆さんの前でもう一度歌わせて頂いて大変感謝しました。

前日、坂口さんと共に高館さんのお家に招かれました。高館さんの「茶事」をはじめて経験しました。日本の有名な「お・も・て・な・し」を実際に体験しました。

意味深い二日間でした。

サック キャロル





## “唐丹希望基金の祈り”

鎮魂と平和の笛壺「フレーザーホルン」と共に世界へ！！



人生の旅路は

喜びで幸せに満ち溢れるときだけではありません。  
困難、挫折、悲しみ、苦しみにも遭遇します。

どんなに険しい上り坂も、喜びにあふれ幸せな時にも  
「真実な道」を求めて進む先に  
愛と感謝に満ちた世界があることを忘れないでください。

あなたが「鎮魂と平和」の心を失わずに生きる姿を  
**フレーザーホルン** は応援します。

### ★悲しいとき、ハソウを吹いてください。

多くの人々が悲しみを乗り越え、そして  
あなたがここに存在することを感じ、  
元気が出るでしょう。

### ★うれしいとき、ハソウを吹いてください。

喜びが大きくなり、更に前へ進む気持ちが  
湧きあがるでしょう。

### ★ハソウに花を活けてください。

あなたの部屋が清らかさで満ちるでしょう。

### ★ハソウを友とし、元気に生きてください。

あなたの未来はきっと明るく幸せなものになるでしょう。



## 「愛の あいうえお 運動」



(提唱者 堀泰雄)

世の中大きく **愛** を広げる運動

子どもたち皆に **生** きる力運動

震災を忘れない **歌** を広げる運動

笑顔でつながる **縁** を深める運動

世界へ、後世へ **恩** 送りする運動

鎮魂と平和の思いを**ハソウ**に託す運動

## 「**縁**ハソウを通じて「平安の心」をあなたに贈ります！」



**縁**ハソウは、5世紀頃、朝鮮半島の新羅から伝えられた須恵器の技法で作陶された焼き物です。

古墳から出土するハソウは、国立博物館で見ることが出来ます。上部はラッパ状、下部は丸く、小さな穴が開いています。考古学では、「酒器」ということになっていますが、この穴に息を吹き込むと、不思議な音がするので「笛壺」と呼ばれることもあります。

ハソウは、大きさによって音程が違い、一緒に吹くと共鳴し、聞いている人の心に響き、安らかな気持ちが広がります。

備前焼の作家好本宗峯は、備前市佐山に窯を開き、備前焼の源、須恵器の復活に取り組み、平成5年、ハソウの復元に成功しました。

現在、宗峯の「平安」の心と須恵器の技法は子息の好本敦郎に受け継がれています。

在原業平の菩提寺、奈良の不退寺では、歌人、業平の霊を慰めるために、古く、ハソウが吹かれたと言われています。それにならって、平成10年5月の業平忌に、ハソウによる供養が行われました。法要に参加した私は、ハソウを酒器としてだけでなく、「平安」の思いが込められた楽器として、現代によみがえらせたいと決意しました。あなたが、ハソウの心を伝えて下さることを、とてもうれしく思います。

その気持ちを込めて、あなたを「ハソウ継承者」として認定します。

「笛壺 ハソウを愛する会」  
会長 坂口 憲一郎 (宗憲)